

第14回日本精神科医学会学術大会

先日愛媛にて日本精神科医学会学術大会が開催され、当院からは看護師や心理士など計5人の職員が口演しました。そして当院の看護師が見事“奨励賞”を受賞しました。

発表テーマは「AIを活用した医療安全管理マニュアルの再構築と教育支援の試み」です。

院内の医療安全管理マニュアルの内容が古いことや使いにくいことに着目し、AI(ChatGPT)を活用したAIチャットシステムの構築を試みました。



診療情報

診療受付	月～金曜日 [午前] 9:00～12:00 [午後] 14:00～17:00 土曜日 [午前] 9:00～12:00
休 診	土曜日午後、日曜日、祝日、年末年始

お問い合わせ先一覧

受付窓口	電話番号	受付時間
初診予約・外来受診相談	050-3734-5408	9:00～17:00(日曜・祝日を除く)
再診予約	050-3734-5401	9:00～17:00(日曜・祝日を除く)
代表番号	050-3734-5041	
デイケアご利用の方・ご利用希望の方	050-3734-5487	9:00～19:00(日曜を除く)
入院のご予約・ご相談	050-3734-5400	
入院中の患者様のお問い合わせ	050-3734-5489	11:00～16:00
救急窓口 ※緊急での受診や入院をご希望の場合	050-3734-5488	

【編集・発行】 成仁病院

〒121-0815 東京都足立区島根3丁目2番1号
TEL:050-3734-5041(代表)



医療法人社団成仁ホームページ

<https://www.seijin.org/>

無断転載禁止

医療法人社団成仁 成仁病院 広報誌

成仁だより

特集

成仁の 障害者雇用の実例



医療法人社団
成仁

季刊
Vol.69
2025 Winter

ご自由にお持ちください

成仁の 障害者雇用の実例

法定雇用率の引き上げや社会的要請が高まる中、ノウハウ不足や現場の懸念から「障害者雇用が思うように進まない」と頭を抱える組織は少なくありません。本特集では、独自の視点で採用・定着を推進する成仁のモデルケースを解説。実践的な事例を通じ、課題解決へのヒントをお届けします。

平均・中央値ともに「8年」

当法人では、法定雇用率を安定して満たしながら、障害のある職員が多岐にわたる部門で力を発揮しています。最大の特長は、一過性の雇用に終わらない「長く働ける環境」があるということ。現在在籍する十数名の職員は、平均勤続年数・中央値ともに「8年」という高い水準を誇ります。これは、一部のベテランが押し上げた数値ではなく、組織全体で高い定着率を実現している何よりの証といえるでしょう。ここからは、当法人で活躍する3名の事例をご紹介します。

3つの長期就労実例から見る成仁の支援

Case1. 看護師 × 統合失調症 <現在9年目>



就労上の課題

薬で眠気や、疲れやすさがある。業務を詰め過ぎたりすると、焦ったり、疲労感が増してしまう。

具体的な配慮・調整

以前は、週3日(4時間/日)だったが、疲労の蓄積が見られたため、週2日(4時間/日)へと調整。以降は、落ち着いて作業ができています。本人と面談をしながら業務量を決めて行った。

上司の声

とても真面目で、現在では一人で任せても大丈夫で頼りがいのある方です。報連相をしっかりとってくれるので、何か体調が悪い時などもすぐに知らせてくれるので、安心しています。

本人の声

看護師として病棟で働いていた経験もあり活かせるのではないかと思った。就労移行にて、施設外実習にて半年ほど実習を行えた。必要な知識を学べたことや、実習も出来て慣れたのもあり自信がつき、安心して就職したいと思った。現在は、微力でも、利用者様の役立っている事にやりがいを感じている。成仁はとても働きやすい所が魅力だと思っています。

Case2. 統合失調症 × 環境整備 <現在4年目>



就労上の課題

疲れやすさがある。

具体的な配慮・調整

週3日週9.5時間勤務にして、負担のかからない働き方とした。

上司の声

実習から行っている仕事でもあるため安心して取り組めている印象です。早く終わる事もありますが、ご自身でやれる事を見つけて作業してくれているので大変助かっています。

本人の声

働きだして、生活リズムが整った、通勤や業務が運動になっていて健康維持になっている。少しでもお金が入る事が良かった。短時間勤務の募集は中々ないし、休みも取れるので就職を希望した。また就労移行にて施設外実習もしていたのもありスムーズに就業出来た。仕事をしていないと、体力も記憶も衰えて行くから続けて行きたい。

Case3. 統合失調症 × 環境整備 × ピアサポーター <現在4年目>



就労上の課題

疲れやすさがある。大勢の前で話す事。

具体的な配慮・調整

疲れやすさがあるため、入職時は、週3日週15時間の勤務とし、その後週4日週20時間、週25時間と増やし、現在では週5日週30時間にて従事。いままでの経験を活かして就労のサポートをしたいとの希望にて、ピアサポーターとして1対1の個別的支援をしている。

本人の声

前職は看護補助をしており、前職の業務を活かせると思い入職した。清掃箇所や業務時間の配慮をしてもらい、週30時間まで増やす事が出来た。現在のやりがいは、支援者として他者に教えたり、相談に乗ったりとする事。そのような事をやらせてもらってとても有難いです。

上司の声

言われた内容を自分で考え行う事が出来ているので、仕事を任せても安心です。また、他者の為に支援したいとの思いはとても素敵です。今後も活躍して行って欲しいと思います。

治療から就労定着まで ― 医療起点の「切れ目のない支援」

精神科医療において、退院はゴールではなく新たなスタートです。障害のある方が地域で自立した生活を続けるには、「治療」「就労準備」「就労・定着」の各段階を繋ぐ、切れ目のない支援が欠かせません。当院では医療機関としての専門性を軸に、グループ内の就労移行支援事業所(Job 庵)や人材紹介会社(キララサポート)との連携体制を構築。従来の縦割り構造で生じがちだった「支援の空白」を解消し、スムーズな社会復帰と長期的な職場定着を後押ししています。

治療・回復期

入院・デイケア

症状の安定と生活リズムの確立



医師・看護師・PSWが連携し、「働ける状態」への医学的な見極めと基礎体力の向上を図ります。

就労準備期

就労移行支援事業所「Job 庵」

実践的なスキルトレーニングと適性の発見



ビジネスマナーやPC訓練、企業実習を通じて就労スキルを習得。本人の適性や希望を見極めながら就職活動をサポートします。

就労・定着期

就労後フォロー

長期就労に向けた伴走支援



就職後も定期的な面談や企業側への助言を行い、再発予防と職場定着を最長3年半(定着支援期間含む)支え続けます。

包括的支援がもたらすメリット ―― 切れ目のない安心感

医療機関から外部の就労支援機関へ移る際、情報の共有不足や環境の変化が心理的な負担となり、病状悪化につながるケースがあります。当院では医療スタッフとグループ内の就労移行支援事業所が緊密に連携。医学的見地に基づく情報を共有し、段階的に移行を進めることで、患者様やご家族に安心感を届け、再発リスクの低減にも寄与しています。

グループ連携 × 外部の専門性で拓く「社会への道筋」

グループ直営の就労移行支援事業所「Job 庵」は、医療福祉系の人材紹介に強みを持つ「キララサポート」と連携。豊富な求人ネットワークを活かし、精神障害・発達障害のある方の就職・転職を力強く支援しています。

「今の職場が合わない」「もう一度働きたい」―― そんな切実な声に応え、治療と両立しながら確かな一歩を踏み出せる環境を整えました。

